

ハウスメーカーなら
インテリアや外装にも
こだわったプランを提案!



階段

● 直階段

省スペースでもあり、シンプルでコストも比較的安く済むので、一般的な住宅では昔からよく採用されている階段です。1階↔2階を直ぐ上り下りするタイプなので、配置によっては勾配が急になります。

● 回り(折り返し)階段

U字型に折れたタイプのデザインです。中央でターンするようになっており、万が一転倒しても一気に下まで落下しない安全性の高い階段です。また、直階段に比べステップ数が多くなるので勾配も緩やかになります。

● らせん階段

ステップが螺旋(らせん)状になっているタイプで、階段としての役目だけでなく、オシャレなインテリアとしての機能も果たします。費用が高くなること、ステップが狭くなること等、デメリットもあります。

● かね折れ階段

回り(折り返し)階段はU字型に折れていますが、こちらはL字型に折れています。安全性やデザイン性は良く似ていますが、U字型に比べ省スペースで設置することができます。デザイン性にも優れています。

バルコニー

● バルコニー

住まいの中にありながら、室内と戸外を結ぶスペースがバルコニーです。室内に溢れる光や、爽やかな空気を取り入れるだけでなく、物干し場としてや、テーブルを置いて部屋のように使うなど様々な用途があります。

● 回りバルコニー

L字形で家の周囲を取り囲むように配置されたバルコニー。いくつかの部屋がバルコニーに面することになり、開放的なイメージの住まいになります。また、家を取り囲む形で配置されることで、外観にもアクセントができます。

● ルーフバルコニー

屋根全体がバルコニーとなり、より広く高い空間が確保できます。屋上庭園やアウトドア・パーティーなど様々な目的で使用できます。但し、フラット屋根(陸屋根)の住まいにする必要があります。

一工夫で住まいのイメージも変わる! 階段(インテリア)、バルコニー(外装)の デザインと機能!

2階建て以上の住まいにはあるのが当然の階段、バルコニー(ベランダ)ですが、その種類は様々です。それらの種類を知れば、デザイン性の違いや機能の差も理解できます。ここでは、インテリアの雰囲気、外観的印象にも係る“階段とバルコニー”についてポイントを説明します。



● 箱階段

上り下りの機能とは別に、階段下のデッドスペースを有効に活用できるのが箱階段と呼ばれるタイプです。一般的には収納として利用することが多いですが、トイレやパントリー等としても有効利用できます。

● リビング階段

名前の通りリビングのなかにある階段です。リビングを通らないと2階に上がれないため家族が顔を合わせることが多くコミュニケーションが取りやすくなります。リビングを広く感じさせることもできる設計です。

● エアステップ

踏み板とそれを支える骨組みのみで作られているため、透過性が高く室内を明るく演出できる階段です。吹き抜けにすればさらに開放的で室内を広い空間に感じられ、デザイン性にも優れています。

● その他

階段の形状とは別に階段に使用するステップも様々な種類があります。踏面には安全のため、板に溝を掘ったり、滑り止めを付けたりします。また、住宅では踏面の幅は15cm以上と定められています。

● インナーバルコニー

しっかりとした屋根がついていて、まるで室内のように使用できるバルコニーです。屋根があることで、使用範囲も広がり、より使いやすくなります。但し、屋根を設ける事で、コストアップにもつながります。

● サービスバルコニー

マンション等でよく使用されるサービスバルコニーとは、一般的のバルコニーに比べ奥行きが1m程度とせまくなり、植木やちょっとしたモノを置いたりすることができるものです。基本的には通風、採光のためのバルコニーです。

● その他

バルコニーと同じようにベランダやテラスという名称もよく聞きます。これと言った定義はありませんが、一般的には「バルコニー」は屋根無し、「ベランダ」は屋根付き、「テラス」は1階に使用されます。

